

「主の恵みの偉大さを知る」

～恵みにフォーカスする～

「しかし、彼は私に言われたのです、『私の恵み（厚意、愛のこもったいつくしみ、あわれみ）はあなたに足りています〔すなわち、あらゆる危険に対抗するのに、またその悩みに雄々しく耐える力を与えるのに十分です〕、なぜなら、私の威力（カ）は〔あなたの〕弱さにおいて完全なものとされる〔成就され、完成される、最も効果的に現われる〕からです』。こういうわけで、キリスト（メシヤ）の威力（カ）が私の上にとどまるように（そうです、私の上に天幕を張って、宿るように）、私はむしろ私のいろいろな弱さ（弱点）をますます喜んで誇るのです。」

コリント人への第二の手紙12章9節 [詳訳聖書]

パウロは「喜んで自分の弱さを誇ろう」と語りました。しかし、この「弱さ」は「病氣」とも訳せる言葉でもありますが、文字通り単なる「弱さ」と捕らえるなら、これはただ自分に開き直っているだけではないかと勘違いしてしまいそうな表現でもあります。このパウロが語りたかった「喜んで自分の弱さを誇ろう」と言いたかったその「弱さ」とはどんな弱さなのか？ 私たちは自分自身の足りなさや、弱点はどうにかして克服していかなければならないものでもあります。いつまでも自分の弱点をそのままにしておいてはいけません。しかし、ここで言う「弱さ」とは、自分ではどうしようもない「弱さ」であり、主の前に祈らざるを得ないような要素のことを語っているように思います。

イエス様も「確かに、この世では苦難や悲しみが山ほどあります」（ヨハネ16:33LB）と語られました。私たちの目の前には、立ちはだかる問題の山と、自分の内側を見れば、どうしようもない弱さだらけの状態の真中で人生を歩んでいる訳です。しかし、その山のような問題と、弱さが重要なのではなく、そんな中で豊かに注がれている恵みが最も重要なのだ、その恵みに気づくことが最も重要なのだとパウロは語りたかったのではないかと思うのです。主は私たちに恵みを豊かに注いでくださっている訳ですが、その土台となるものが山ほどの問題と、私たちの弱さであり、その上に、天幕を張り広げるかのようにして主の恵みが天の栄光を輝かす光として豊かに宿ってくださるのだと悟る必要があるとパウロは本日の聖書箇所から語りたかったのではないかと感じます。

主は先週の木曜日にご昇天なさり、今は聖霊様を待ち望む聖霊待望の期間です。その主の豊かな恵みはご聖霊様という具体的な形で表わされました。イエス様ご自身が洗礼を受けられた時、鳩の姿を持って目に見える形でご聖霊様が下られました。五旬節の時には祈り待ち望む弟子たちの上に、火の御姿を持って降られました。私たちにもご聖霊様が豊かに注がれるようにと願い祈ります。私たちはそのご聖霊様のお働きなくして力あるクリスチャンとして歩むことはできません。聖霊様を求め続けましょう！